衆議院厚生労働委員会ニュース

平成 27.9.11　第 189 回国会第 39 号

9 月 11 日（金）、第 39 回の委員会が開かれました。

1　厚生労働関係の基本施策に関する件

・戦没者の遺骨収集の推進に関する法律案の起草及び硫黄島戦没者の慰霊のため、東京都小笠原村硫黄島において視察を行った委員を代表して、渡辺委員長から報告を聴取しました。

・塩崎厚生労働大臣、薗浦外務大臣政務官、橋本厚生労働大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

田　畑　裕　明君（自民）

・海外戦没者の遺骨収集に係る主な地域別の経緯及び過去５年間の遺骨収集に係る予算額の推移について伺いたい。

・平成26年度の硫黄島に係る遺骨収集帰還の実施計画の実績及び今年度の実施計画の進捗状況について伺いたい。また、現状の課題とその解決策について厚生労働省の見解を伺いたい。

・本日、起草が予定されている法律案の成立後、遺骨収集事業をどのように推進していくのか、厚生労働省の見解を伺いたい。

奥　水　恵　一君（公明）

・台風18号による大雨等の被害を受けた被災地に対し、厚生労働省として具体的にどのような支援を行うのか。

・近年、遺骨収容数が以前に比べて大幅に減少している理由を伺いたい。

・年々遺骨収集に関する新たな情報を得ることが難しくなる中、厚生労働省としてどのような取組が考えられ、どのように実施していこうとしているのか伺いたい。

西　村　智奈美君（民主）

・日本国内の硫黄島における遺骨収集が遅れている実態やその反省を踏まえることが、海外での遺骨収集事業の迅速化につながるのではないか。

・遺骨に関する情報収集を進めるため、指定法人に限らず、幅広く民間団体や個人との連携を図るべきと考えるが、厚生労働大臣の見解を伺いたい。

・国内外における民間建立の戦没者慰霊碑について、その管理状況が不良なものも少なくないことから、厚生労働省として更なる調査を実施し、今後の対応方針を検討すべきではないか。

牧　　義　夫君（維新）

・技能実習制度による外国人介護人材の受入れは、我が国における人材確保が目的ではなく、開発途上国等への技能移転であるとするならば、我が国から当該国へ指導者を派遣した方が効率的ではないか。

・技能実習制度の目的に係る政府の説明には納得し難い面もあることから、我が国における介護人材確保に向けた新たな仕組み、特に介護従事者の処遇改善が必要と考えるが、厚生労働大臣の見解を伺いたい。

・技能実習制度の対象職種に介護を加える場合、実習生の受入れを行う監理団体についてはどのような団体を具体的に想定しているのか。

赤　嶺　政　賢君（共産）

・沖縄における公共事業での土地の掘削に際し、不発弾の探査が義務付けられている一方で、遺骨の存否の確認は義務付けられていないため、遺骨についても配慮するようルールを設けるべきではないか。

・今朝の新聞報道で、戦没者の遺骨の身元の特定を進めるため、厚生労働省が遺族にＤＮＡ鑑定を促す方針を固め、まず沖縄を対象に今年度中に着手するとある。これについて厚生労働省の説明を伺いたい。

・米軍基地内であっても、政府は情報を収集し、遺骨の収集を推進していくべきではないか。

２　戦没者の遺骨収集の推進に関する法律案起草の件

・渡辺委員長から趣旨説明を聴取しました。

・採決を行った結果、全会一致をもって起草案を成案とし、これを委員会提出の法律案とすることに決しました。
（賛成－自民、民主、維新、公明、共産）